

一般社団法人日本呼吸療法医学会
2017年度（第40期）第4回理事会議事録

日 時：2018年8月3日（金）13：30～15：00

場 所：東京ドームホテル 5階「初音」

出席者：川前金幸（理事長）、藤野裕士（副理事長）、今中秀光、大塚将秀、小谷 透、
志馬伸朗、蝶名林直彦、西田 修、布宮 伸、竹田晋浩、神津 玲、森松 静、
山本信章（各理事）、落合亮一、橋本 悟（各監事）

陪 席：吉田健史（大阪大学医学部附属病院集中治療部；第41回学術集会会長補佐）[敬称略]
山崎由華、小笠原聡（事務局）

【開 会】（川前理事長）

- ・理事会開催に必要な理事の過半数の出席があることが報告され、開会が宣言された。

I. 報告事項

1. 前回理事会議事録（案）の確認・承認（川前理事長）

- ・前回議事録は、原案通り承認された。

2. 持ち回り理事会（審議2件、連絡2件）決定事項の承認（川前理事長）

- ・審議2件、連絡2件の決定事項をすべて確認した。

3. 学術集会報告・準備状況

1) 第40回学術集会会長挨拶（竹田会長）

- ・事前参加登録者の懇親会費を無料とした結果、登録者数が950名を超え、目標参加者数の1,500名が達成見込みであることが報告された。

2) 第41回学術集会準備状況（藤野副会長）

- ・2019年8月3日（土）～4日（日）に大阪国際会議場で開催される。学術集会のリーフレットが資料として配付された。テーマを『基礎から臨床へ、臨床から基礎へ』とし、基礎系の内容に重きを置いたプログラムとする。
- ・参加費は例年に準じて設定する方針が報告された。看護師向けのセミナーなども予定し、運営には新しく認定された呼吸療法専門医も含めて広く協力していただく。プログラム作成WGを組織し、内科系、在宅、理学療法、看護などの領域も幅広くプログラムに組み込む方針が報告された。

3) 第42回学術集会準備状況（志馬副会長）

- ・2020年6月27日（土）・28日（日）に国立京都国際会館で開催することが報告された。前日の26日（金）に、ザ ソウドウ東山京都【THE SODOH HIGASHIYAMA KYOTO】で理事会・社員総会の開催を予定している。
- ・コンベンションの見直しを行い、見積結果が出揃い次第、最終決定を行うことが報

告された。

4) 第 43 回学術集会準備状況 (大塚理事)

- ・ 2021 年 7 月 3 日 (土)・4 日 (日) にパシフィコ横浜で学術集会を開催する予定であることが報告された。前日の 7 月 2 日 (金) に同会場で理事会・社員総会の開催を予定している。

4. 定款施行細則変更の件

- ・ 2017 年度は定款、定款施行細則に変更はなかったことが報告された。

5. 各委員会報告

1) 内保連加盟申請手続進捗 (蝶名林委員長)

- ・ 前回理事会での承認に基づいて、内保連に加盟申請を行ったことが報告された。年会費 20 万円は 2018 年度予算で事業費に項目を新たに設けて計上した。遠隔医療や AI などの診療報酬収載に向けて引き続き委員会で審議を行い、本年 12 月の内保連総会での認定を目指す。
- ・ 診療報酬提案内容については、本会の事業方針と矛盾しない方向で検討すべきとの意見が挙げた。

2) 医工連携ワーキンググループ (西田担当理事)

- ・ 前回理事会で決定した本 WG 解散の方針について、中川委員長の下承が得られたことが報告された。委員にもあわせて伝達された。

3) 自発呼吸アセスメント指針作成ワーキンググループ (今中担当理事)

- ・ 前回理事会で本 WG の存続について審議されたが積極的な活動を継続する意向であることを委員から確認したため、継続していくことが報告された。

6. その他

1) 次回理事会について

- ・ 新理事長のもと、社員総会終了後に 2018 年度の開催日程を検討する。

II. 審議事項

1. 次期職種指定理事について

- ・ 神津 玲理事 (PT)、山本信章理事 (CE) のほか、Ns の職種指定理事として新代議員の茂呂悦子先生を旧理事会から推薦することを決定した。

2. 援助費、余剰金に係る理事会・各種委員会内規改正案について (大塚担当理事)

- ・ 改正案のうち赤字部分を削除し、以下の内容で決定した。

第5章 学 術 集 会

第19条 本章は定款第8章を補足するものである。

第20条 援助費、余剰金については以下の各項に定める。

- (1) 学術集会開催援助費 200 万円は前年度に学術集会会長に支給し、学術集会後に

会長より本体会計に返金する。

(2) 援助費返金後、公認会計士が概算税額を算出する。

(3) 概算税額を控除後、余剰金がある場合、25%を学会本体会計へ繰り入れ、75%を学術集会会長の所属する公的~~受け入れ~~機関へ寄付する。赤字の場合、本体会計で補填する。

2 本体会計の決算後に正式な税額が明らかになるが、その時点で修正は行わない。

~~3 災害時・有事の場合は、理事会で協議し、立て直しをはかる。~~

旧 19 条は、新 21 条に繰り下げ

3. 2018 年度予算案について（大塚担当理事）

<収 入>

- ・年会費：2018 年 6 月 1 日時点の会員数に基づいて計上した。
- ・広告費：広告費は 1 号・2 号いずれも表回り全箇所掲載を見込んだ額とした。
ユーザーレポートは 1 号については実費を計上した。
- ・事業収入：医師向けセミナーは既に Basic・Advanced を 1 回ずつ開催済のため、その集客状況を踏まえて前年度比－330 万円とした。
小児在宅マニュアルは、在庫 600 部の完売見込額を計上した。
- ・学術集会収入：運営事務局作成の予算案とおり計上した。
- ・別刷販売：前年度は賛助会員数社から計 120 万円弱の注文があったが、2018 年度は従来の予算にならって計上した。
- ・以上、当期収入予算は 125,978,936 円となった。前年度繰越利益 43,771,064 円をあわせて収入総計予算は 169,750,000 円となった。
- ・学術集会収入を除く単年度収入予算は前年度比約 932 万円減となる。その要因は前年度に大きな収入があった小児在宅マニュアルと別刷の販売収入減少が挙げられるが、これらを除くと前年度比で約 190 万円の減少であり、セミナーの約 102 万円の減収が大きいことが報告された。

<支 出>

- ・機関誌発行諸経費：前年度決算を参考にして計上した。
- ・委員会費：各委員会からの申請額どおりに計上した。
- ・事業費：前年度決算や、本年度既に終了したセミナーの結果を参考に、本年度新たに計上する社会保険委員会事業費や RST 事務経費などの項目も含め、前年度比約 258 万円の減額とした。
- ・学術集会費：運営事務局作成の予算案とおり計上した。
- ・専門医等運営費：筆記試験範囲項目の解説集を学会 WEB に掲載する費用として約 20 万円を見込み、合計 23 万円を計上した。
- ・理事会費：予算策定時では新役員が未定であったため、前年より若干増額して計上した。
- ・交際費：他団体との交流や慶弔費などを目的として本年度から新設した。交際費と

いう名目により、本法人の必要経費と認められ法人税軽減につながる。

- ・事務局費：従来通り 540 万円を計上した。
- ・法人税：前年度決算と同等の金額を計上した。
- ・寄付等：学術集会会長への慰労費に相当するものとして本年度は 2 年分を計上したが、今後は 1 年分の計上となる。
- ・以上、当期支出予算は 128,380,000 円、次年度繰越利益が 41,370,000 円となった。
- ・学術集会支出を除く単年度支出予算は前年度比 368,895 円の増額となるが、寄付金 1 年分を除外すると、実際の支出は前年比約 180 万円減となった。

<収支合計>

- ・学術集会、寄付等を除く単年度の収支は約 9 万円のわずかな支出超過であることが報告された。
- ・以上、2018 年度予算について提案し、本理事会で承認を得た。本案で社員総会に提出し代議員に可否を諮るものとする。

4. 各委員会からの審議事項

1) ECMO プロジェクトでの新教科書作成について（竹田担当理事）

- ・ELSO の ECMO・RedBook も出版から時間が経過したため、その後の ECMO 治療バイブルを本会 ECMO プロジェクト委員会が関連領域を主導して製作することが提案され、承認された。
- ・PCPS 研究会（澤 芳樹世話人（大阪大学））が 2004 年に発行した『経皮的心肺補助法—PCPS の最前線』（秀潤社）をもとに目次案を作成する。呼吸療法・集中治療・救急・循環・蘇生など体外循環に関連する全領域を網羅し、関連学会にも広く協力を依頼する。出版社については今後検討していく。

5. その他

1) RST 認定・登録制度の事務経費について（大塚事務局担当理事）

- ・『RST 認定・登録制度』が発足した。事務局業務委託料の試算をメディカ出版に依頼したところ、24 万円/年との回答を得た。ほぼ妥当な金額と考えられるので、メディカ出版に正式に事務局業務を委託することとした。なお、本制度は本会と日本呼吸ケア・リハビリテーション学会との共同事業として計画されてきた経緯から、費用を 2 学会で等分負担する方向で蝶名林理事を通して調整中で、8 月末には承認が得られるとの内諾があったことが報告された。